

バドミントン競技における連続得点の有効性
泉 雄祐 (競技スポーツ学科 コーチングコース)
指導教員 鳥羽 賢二

キーワード：連続得点，ルール改正

1. 研究動機と目的

バドミントン競技は、2006年にラリーポイント制が導入され大きなルール変更があった。それ以降、得点に対する考え方や戦術の変更が必要となった。

新ルールは、サーブ権の有無にかかわらず得点が入るシステムであり、相手のミスでも得点が加算される。それらのことにより、ゲーム中での試合運びが、勝敗に影響を及ぼすことになった。ゲーム中のミスが直接相手の得点になるため、より正確な攻撃を選択し、時には決定打を打つよりミスせずに安全にラリーを繋ぐ打ち方を選択している。つまり、ミスを最小限に抑え、より多く連続得点を得ることが、新ルールにおいて試合で勝利できる近道となってきている。

そこで本研究では、ラリーポイント制ゲームの得点内容に着目し、連続得点数と勝敗との関係を明らかとする。また、理想的なゲーム展開のモデルを提示する。

2. 研究方法

西日本バドミントン学生大会の100試合分のスコアシートから連続得点のパターンを分析し、検証する。そこから連続得点の1ゲーム当たりの回数と勝率の関係性を分析した。

3. 調査結果と考察

勝利時の2連続得点の回数は100試合中478回、敗北時の2連続得点は416回となった。100試合の中で62回の差があらわれ、最低連続得点である2連続得点は1試合平均3.07回という結果が出た。

次に勝利時の3連続得点の回数は100試合中381回、敗北時の3連続得点は268回となった。100試合の中で113回の差があらわれ、3連続得点は1試合平均2.66回という結果が出た。

4. 理想の連続得点と回数

1ゲームの中で2連続得点を3回とると勝率は40%となり、4回とると勝率は76%となる。同様に3連続得点を2回とると勝率は30%となり、3回とると勝率は一気に80%になる。3連続得点を3回以上とることが1番勝利に近づくことが検証された。

至極当たり前のことであるが、サーブ権を相手に移さないことが重要となる。得点を入れた側に与えられるサーブ権は連続得点をする機会となる。相手にサーブ権を与えてしまうことにより連続得点はストップする。図1に示した通り、サーブ権を与えない（サービスエースもしくは、ラリーを制する）という高い意識を持ち、連続得点をより多く得ることが勝利することとなる。

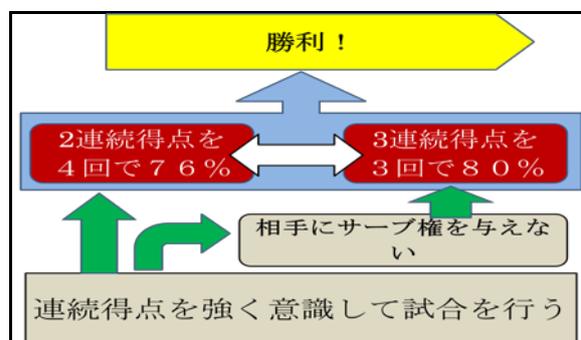


図1 連続得点の理想勝利モデル (筆者作成)

引用・参考文献

公益財団法人バドミントン協会HP

<http://www.badminton.or.jp/> 11月23日閲覧